令和４年度　多摩市立多摩第一小学校　　授業改善推進プラン　　教科名

算数

|  |  |
| --- | --- |
| 算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて | |
| **ア　知識及び技能** | **イ　思考力、判断力、表現力等** |
| ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解  ・日常の事象を数理的に処理する技能 | ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて表したりする力 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 児童・生徒の学力の状況（課題） | 授業における具体的な手だて | 手だての実施時期 | 成果検証（２月） |
| 第１学年 | ・具体物の操作をしないと、１０までの計算が難しい児童がいる。ア  ・文章問題の場面を理解して解くことが難しい児童がいる。イ | ・毎時間、計算問題の練習時間を設定する。また計算の仕方をブロックや図などで表し、計算のイメージがもてるようにする。  ・たし算・ひき算の場面をブロックやテープ図で可視化し、場面把握をした上で問題に取り組むようにする。 | ９月以降 |  |
| 第２学年 | ・やり方を理解して答えを出すことはできるが、答えを出すまでの過程について説明する力を付けることが課題である。ア  ・学習したことを、日常の場面で活用する力を付けていきたい。イ | ・問題を解くだけでなく、「なぜそのような答えになるのか」など、自分の考えを表す場面を増やしていく。  ・学習した内容を多面的に捉えられる問題に取り組んだり、問題を自分で作ったりする場面を多く設定したりする。 | 1０月以降 |  |
| 第３学年 | ・小数や整数の仕組みの理解、計算技能の習熟に課題がある。ア  ・事象を数理的に読み取り、式に表現することに課題がある。イ | ・筆算などの計算の過程をノートに記録し、児童自身が計算の過程を振り返るよう促す時間を設定する。  ・□（しかく）を用いて、事象を時系列に即して式に表す活動を繰り返し、習慣化させる。 | ９月  12月 |  |
| 第４学年 | ・億を超えた大きな数を読んだり表したりする活動に課題がある。ア  ・四則計算（特にかけ算やわり算の筆算）に課題がある。ア  ・事象を数理的に読み取り、式に表現することに課題がある児童がいる。イ | ・数直線や面積図を活用して視覚化する。  ・見積もりを出してから計算をする習慣を付ける。計算の過程はノートに残しておき、間違いに気付くことができるようにする。  ・読み取った場面を図に表す機会を増やし、正しく立式できるようにする。立式の際は、計算のきまりを積極的に活用するよう指導する。 | ５月、８月、９月、２月  10月以降 |  |
| 第５学年 | ・答えの見通しを立てずに計算してしまうことが原因の誤答が多いことが課題である。ア  ・結果を出して終わってしまうことが多く、統合的・発展的に考察することが難しい。イ | ・問題場面を数直線で表し、結果の見通しを立ててから解決するようにさせる。  ・多面的・批判的に考えたり、他の考えや既習事項と結び付けたりして、新しい課題を見いだせるように指導する。 | １０月、11月  １０月、1２月、２月 |  |
| 第６学年 | ・約分や、適切な計算方法の活用、数のまとまりの概念形成ができていないことが課題である。ア  ・交換法則や結合法則などの性質に着目できなかったり、図形の構成要素と公式が結び付いていなかったりする。イ  ・自他の考えを比較したり、別の方法を考えたりするなど自己を高めようとする姿勢に課題がある。 | ・数直線などを用いて、問題場面の数量の関係を明確にして解決に取り組ませるようにする。適用問題に取り組み、学習内容の定着を図る。  ・式に用いた数値や演算方法の根拠を明らかにするため問題文を図示するように指導する。  ・ICT機器の活用など、互いの考えや方法を見合うことができる場を工夫する。 | 9月 以降  12月 以降 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| **■**「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について  ・計算におけるブロックの操作を動画で提示することで、計算の仕方をイメージできるようにする。  ・問題解決の場面では、友達のノートを画面で共有することで多様な表現方法があることに気付かせる。  ・配布した図形教材に、各自が補助線を引いたり、移動や変形などの操作をしたりして、自分の考えを表現し、その共有に端末やプロジェクターを活用する。  ・自力解決の際に用いた考えの共有に端末を積極的に活用することで各自の発信力を高める。  ・計算練習やドリルなどへの個々の取り組みを効率的に支援し、達成感を高める。 | ■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学び  に向かう力」の育成に向けた取組について  ・授業の終わりには、その時間の内容が振り返られるような問題に取り組むようにする。  ・授業の導入時に新しい問題が今までとどう違うのかを考察したり、何が分かれば、何ができるようになればこの問題が解けるかなどを考えたりする時間を取り、児童が自分で本時のめあてを考え、学級で共有するような取り組みを行う。  ・本時の終末に、適応問題に取り組むことで、その日の学んだことを児童が自分で確認できるようにする。 |